

Max Classroom.net

入試問題アプローチ 2017

法政大学 T 日程 (全学部) 入試

(試験時間 90 分)

A 入試概況

T 日程入試： 過去 3 年間の受験者数、合格者数、倍率

		2017 年度入試			2016 年度入試			2015 年度入試		
		受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
文	日本文	352	31	11.4	318	36	8.8	263	27	9.7
	英文	248	64	8.6	455	73	6.2	482	60	8.7
	地理	144	25	5.8	125	27	4.6	157	22	7.1
	哲	365	41	8.9	201	43	4.7	206	44	4.7
	心理	543	30	18.1	415	45	9.2	411	30	13.7
	史	290	43	6.7	233	46	5.1	252	40	6.3
法	法律	1,349	177	7.6	1,342	282	4.8	965	243	4.0
	国際政治	502	69	7.3	388	93	4.2	347	74	4.7
	政治	603	76	7.9	545	101	5.4	688	146	4.7
経済	経済	1,009	187	5.4	903	192	4.7	1,191	199	6.0
	現代ビジ	1,143	137	8.3	294	88	3.3	405	66	6.1
	国際経済	883	150	5.9	800	213	3.8	437	118	3.7
経営	経営	1,518	153	9.9	828	153	5.4	1,038	140	7.4
	経営戦略	735	93	7.9	841	136	6.2	637	109	5.8
	市場経営	727	84	8.7	404	86	4.7	811	82	9.9
社会	社会	718	115	6.2	630	132	4.8	762	104	7.3
	社会政策	707	106	6.7	741	153	4.8	516	116	4.4
	メディア	563	63	8.9	584	93	6.3	460	93	4.9
現代 福祉	臨床心理	450	66	6.8	378	91	4.2	287	53	5.4
	福祉コミ	613	96	6.4	772	163	4.7	340	118	2.9
国際	国際文化	977	67	14.6	834	80	10.4	975	66	14.8
人間	人間環境	1,302	158	8.2	1,210	214	5.7	788	159	5.0
情報 科学	コンピュー	266	34	7.8	179	25	7.2	172	14	12.3
	D メディア	196	24	8.2	197	20	9.9	139	14	9.9
キャ	キャリア	1,256	108	11.6	882	158	5.6	1,121	100	11.2
GIS	GIS	409	24	17.0	352	64	5.5	---	---	---
デザ イン	建築	467	43	10.9	350	49	7.1	346	34	10.2
	都市環境	311	35	8.9	255	33	7.7	281	28	10.0
	システム	326	34	9.6	273	39	7.0	328	32	10.3
理工	創生科	270	57	4.7	214	52	4.1	334	70	4.8
	機械	377	58	6.5	388	66	5.9	412	75	5.5
	電気電子	308	54	5.7	273	57	4.8	240	56	4.3
	応用情報工	333	62	5.4	370	79	4.7	225	55	4.1
	経営シス	272	56	4.9	250	53	4.7	288	47	6.1
スポ	スポーツ	994	100	9.9	937	118	7.9	816	108	7.6
生命	環境応用化	237	38	6.2	170	37	4.6	149	28	5.3
	生命機能	193	21	9.2	146	29	5.0	137	22	6.2
	応用植物科	161	18	8.9	97	21	4.6	91	17	5.4
合計	22,117	2,797	7.9	18,574	3,440	5.4	17,835	2,893	6.2	

MAX 入試問題アプローチ 2017 法政大学 T 日程 (全学部)

2016 年度から 2 年連続志願者を増やした法政大学であるが、定員充足率の厳格化の逆風の中で、2016 年度は MARCH 早慶上智理科大の中で唯一前年度より合格者を大幅に増やし、前年度指数も 119 という結果を出した。2017 年度は一層の厳格化に加え、前年度の反動もあり、受験者の絞り込みを余儀なくされた。T 日程でも実受験者が約 3,543 人増えた一方、合格者数は約 640 人減り、実質倍率が一気に 2.5 ポイント上昇する結果となった。2016 年度の合格者増を差し引いても 2015 年度の 6.2 倍から 1.7 ポイント上昇したということになる。

学部学科別にみると、日本文学科は T 日程では国語と小論文のみ (英語なし) で受験できることもあって受験者が集まる。また 2016 年度から T 日程に参入した GIS であるが、上智の英語と日程がかぶる A 方式を避け T 日程で受けに来る層がいることもあり、当初から「個別 A 方式よりも合格ラインが高くなる」と予想が出ていたが、結果偏差値では GIS がやや低めに出ている。倍率に関しては、想像以上の絞り込みがなされ 2017 年度は 17 倍と破格の数字となった。

2017 年度入試 方式別の募集人数と倍率

		一般入試 A 方式		一般入試 英語外部試験		一般入試 T 日程		センター B		センター C	
		募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率
文	I 日程	168	5.7	---	---	77	9.6	48	4.9	21	3.1
	II 日程	147	5.5	---	---	---	---	---	---	---	---
法	I 日程	83	4.7	---	---	84	7.6	65	3.7	18	2.3
	II 日程	270	7.3	---	---	84	7.6	---	---	---	---
経済	I 日程	182	6.6	5	3.9	78	5.3	5	4.1	18	3.2
	II 日程	251	6.6	---	---	---	---	---	---	---	---
経営	I 日程	160	5.0	---	---	77	9.0	50	4.6	18	3.5
	II 日程	216	6.0	---	---	---	---	---	---	---	---
社会	I 日程	200	4.9	---	---	50	7.0	50	4.3	15	2.4
	II 日程	165	6.4	---	---	---	---	---	---	---	---
現福		112	5.6	5	3.2	25	6.6	20	5.4	8	3.0
国文		125	7.0	---	---	24	14.6	5	15.1	---	---
人間		135	7.3	5	19.8	30	8.2	20	4.7	3	2.9
情報		70	5.4	4	4.3	10	8.0	20	4.2	6	3.4
キャ		120	9.9	---	---	25	11.6	25	6.2	5	2.5
GIS		20	7.0	5	4.2	10	17.0	10	5.5	---	---
デザ	I 日程	80	5.1	---	---	33	9.9	45	5.8	9	4.2
	II 日程	65	7.5	---	---	---	---	---	---	---	---
理工	I 日程	104	4.8	---	---	71	5.4	79	3.2	23	3.0
	II 日程	136	5.0	---	---	---	---	---	---	---	---
スポ		83	7.9	5	4.8	25	9.9	15	7.8	---	---
生命	I 日程	36	7.3	9	5.3	18	7.7	33	4.0	9	3.0
	II 日程	80	4.1	---	---	---	---	---	---	---	---

* I 日程、II 日程は 2 つの方式が選択できるということではなく、学科によって受験日が分かれているだけである。

* センターの B 方式は 3 教科型で私大併願者が多く、C 方式は 5 教科型で国公立併願者の受験が多い。

* T 日程は 2 科目で受験できるということもあり、倍率は A 方式 (個別入試) に比べて全体的に高い。

過去 2 年間の入試方式別の入試

		2017 年度				2016 年度			
		一般 A 方式	一般 英語	一般 T 日程	センタ ー	一般 A 方式	一般 英語	一般 T 日程	センタ ー
文	I 日程	65.6	---	61.8	66.0	64.0	---	63.2	64.9
	II 日程	64.0				63.5			
法	I 日程	64.5	---	64.0	66.2	63.3	---	64.0	64.7
	II 日程	62.5				60.7			
経済	I 日程	60.4	55.5	61.1	---	58.7	---	59.1	---
	II 日程	59.1	---	---	---	59.0	---	---	---
経営	I 日程	61.2	---	62.2	64.2	61.7	---	61.5	63.0
	II 日程	61.1	---	---	---	60.2	---	---	---
社会	I 日程	61.1	---	62.5	64.0	60.7	---	60.4	63.7
	II 日程	60.2	---	---	---	59.2	---	---	---
現福		60.4	59.5	59.3	63.7	59.1	---	56.5	62.4
国文		64.4	---	65.9	69.5	63.4	---	66.9	---
人間		61.6	54.2	59.1	65.0	58.8	63.6	58.2	63.4
情報		56.5	57.5	56.5	58.4	55.7	61.8	56.5	57.4
キャ		60.7		60.5	64.0	58.4	---	60.3	61.8
GIS		67.9	57.2	67.2	---	68.2	51.1	67.2	---
デザ	I 日程	59.0	---	58.0	61.5	60.9	---	57.1	61.2
	II 日程	60.7	---	---	---	58.3	---	---	---
理工	I 日程	59.8	---	55.7	59.6	59.2	---	54.4	60.0
	II 日程	57.0	---	---	---	57.8	---	---	---
スポ		58.7	なし	58.4	62.6	58.7	なし	61.6	62.6
生命	I 日程	59.5	57.0	57.5	62.3	61.1	55.1	57.4	61.6
	II 日程	62.0	---	---	---	60.6	---	---	---

*センターは 2 つの方式の偏差値の単純平均を算出している (募集単位ごとの受験者の母数は考慮していない)

*スポーツ健康の英語利用入試はデータなし

センター方式は国公立志望者、倍率は決して高くないものの難関私大志望者が抑えに来るため、高めの偏差値を出している。センター方式のデータをさらに内訳すると 5 教科型の C 方式は国公立受験者層がほとんどであり、3 教科の B 方式よりも 1 ポイントほど合格者偏差値が高い傾向がうかがえる。T 入試と個別 A 方式との間には全体としては大きな差はないと言えるだろう。英語外部試験利用入試は T 日程と同じ 2 月 5 日に行われるが、ほとんどの学部で A 方式、T 日程よりもかなり低い倍率、合格ラインとなっている。T 日程と日程が被っているため、外部試験利用方式を選択する受験生はまだまだ限定的とみられ 1 つの受験機会として積極的に考えたい。また GIS 英語外部利用入試の 2016 年度 51.1、2017 年度 57.2 という偏差値は破格の低さである。今後受験者が増加していくことが予想されるが、動向を注視したい。

MAX 入試問題アプローチ 2017 法政大学 T 日程 (全学部)

過去 3 年間の合格者の最低得点 (%) : A 方式、T 日程

		2017 年度入試		2016 年度入試		2015 年度入試	
		A 方式	T 日程	A 方式	T 日程	A 方式	T 日程
文	日本文	67	73	62	75	66	69
	英文	64	73	58	56	62	67
	地理	60	68	54	54	59	66
	哲	63	69	59	50	64	62
	心理	69	75	63	56	67	69
	史	66	67	64	52	66	62
法	法律	60	70	57	52	60	60
	国際政治	65	71	58	52	60	65
	政治	63	69	57	53	61	60
経済	経済	63	67	63	52	66	63
	現代ビジ	65	68	58	47	57	61
	国際経済	63	68	60	49	55	61
経営	経営	62	72	65	53	65	66
	経営戦略	64	70	57	54	61	62
	市場経営	65	69	58	52	63	66
社会	社会	66	70	63	53	67	65
	社会政策	63	66	58	50	58	59
	メディア	66	70	61	52	60	62
現代福祉	臨床心理	64	67	60	51	56	64
	福祉コミ	63	65	59	50	54	54
国際	国際文化	64	74	59	59	62	71
人間	人間環境	62	69	61	52	62	61
情報科学	コンピュー	73	74	57	66	61	73
	D メディア	74	72	60	70	61	75
キャ	キャリア	61	70	57	52	60	65
GIS	GIS	59	80	63	59	63	---
デザイン	建築	70	77	73	67	75	78
	都市環境	74	76	74	68	74	71
	システム	80	76	83	67	79	74
理工	創生科	61	68	65	63	67	64
	機械	76	76	74	68	73	70
	電気電子	64	69	68	64	69	66
	応用情報工	71	70	65	65	70	63
	経営シス	66	73	71	67	72	72
スポ生命	スポーツ	65	70	66	54	69	64
	環境応用化	62	73	69	63	70	71
	生命機能	74	75	74	61	74	67
	応用植物科	65	76	76	62	74	65

* 合計の倍率は全体受験者 ÷ 全体合格者の計算式で算出

後で述べるが 2016 年度の T 日程の英語が異常に難しく、その回のみ合格最低点が軒並み下がっている。英語なしで受験できる日本文学科だけ A 方式よりも 13 ポイントも高かった一方、英語を受験した他学科では A 日程より 10 ポイント以上も下げているところもあり、(小論文の平均点が高かったとしても) 相当英語の得点率が悪かったことがうかがい知れる。その反動で 2017 年度の T 日程は英語の出題難易度がずいぶん下がり、合格ラインの高い入試となった。

B 英語試験の概況

この入試の傾向に対する私の第一印象は「ぶれすぎ」という言葉がぴったりくるだろう。まず出題の内容についてであるが、2012年から2017年までのT日程の出題を大問ごとに並べると以下の通りで、読解が3題以上出るといことは見て取れるが、文法問題や語法についてはランダムに入っては消えている。特に2015年度、2016年度の受験生は当日試験問題を見てその変化にずいぶん戸惑ったことであろう。問題を見ていると、全学部ということもあって学部で作問責任者を回しているだけじゃないか、もしくは学部ごとに大問を担当し、学部間の調整を十分に取らずにくっつけているのではないか、と思いたくなるほど整合性が取れていない部分がある。

	2016&17年	2015年	2014年	2012&13年年	2012年
1	読解	並び変え 10問	読解	文法語法 15問	読解
2	読解	文法語法 10問	読解	読解	読解
3	読解	読解	読解	読解	読解
4	読解	読解	読解	読解	読解
5		読解			

さて、ここまでは傾向の変化であり対応も可能であり、まだ許せる。最大の問題は2016年度の問題にみられるように難易度に一貫性がないことである。2016年度の入試はいきなり「チョー難」の設定の問題も散見された。私も2015～2017年の3セットを解いてみたが、おおよそ同じ入試方式とは思えない。2017年の後に2016年度を解いた私はそのレベル差にびっくりしたというのが本音で、かなり難しい設問も多く、得点率も所要時間も全く異なった。2016年度の中でも特に大問2のペンギンの問題、大問3のマルサスの問題は文章自体も理解しづらく、選択肢も抽象的なものや難解なものが含まれ、全体として非常に難しかった。私もずいぶん苦戦を強いられ、よくわからないまま解答し、解説を読んでもいまいち租借できないものもいくつかあり、「こりゃないだろう」という不満の独り言が出てしまう瞬間もあった。大問1も「やや難しめ」、大問4も「～かなり難しめ」にランクするようなものであり、設問ごとで言えばかなり難しいものも多くある。2016年度の受験生はこんな問題にあたり、(合否という結果云々の前に)それまでの努力を適切に発揮することもできなかったのではないかと哀れに思えてくるが、このような設定をした大学側の姿勢は厳しい批判に値する。実際に入試結果を見てもこの年の合格最低点は例年と比べてとても低いが、英語問題が入試判定素材として有効に機能していない証拠である。2016年度はGISが満を持してT日程に参入した年であり、それに引きずられてこのような異常な難易度の設定になったという噂話もあり(私はそうだとは思っておらず、出題者の分析ミス、判断ミスだと思っているが)、仮にその噂が本当だとしても、文系の他学部は60前半、理系も含めると50台の偏差値層が受ける全学部日程にあって一学部の参入で全体のクオリティーが崩壊するような出題は大学として反省すべきものであろう。

2017年度はその反動もあり、例年並みのレベルに戻った。今後は隔年現象でやや難しくなる可能性もあるが、2016年度の問題点は大学側も十分に把握しているだろうから、2016年度のような難易度には戻らないだろう。2017年度プラスアルファぐらいを1つのイメージラインとして準備していけるとよい。

なお、英語試験の満点は学科によって150～200点と換算が変わる。

【時間と難易度の目安】

ここからの分析は、リスクヘッジを取るために 2016 年度の問題も最低限参照にしつつも、2015 年度と 2017 年度の問題をベースに分析をしていく。

	内容・語数	時間	難度
1	読解	15～20	B
2	読解		
3	読解		
4	読解		
	(文法問題)	10	A/B

前項で説明した通り、2012 年、2013 年、2015 年には文法問題が入ってきており、今後もそれが無いとは言い切れないが、少なくとも全体的な流れとしては文法・語法を独立問題として出さずに読解のみの出題が中軸にあると言える。コミュニケーション能力によりフォーカスする現在のトレンドからしても、2017 年度 of 読解 4 題という流れは続いていくと個人的には予想している。

読解が 4 題出ることを想定する。2017 年度の問題の個々のレベルは決して高くないが、大問ごとに難易度にややばらつきがあるため、易しめの問題は 15 分、難しめの問題はさらに 5 分加えて 20 分ぐらいを目標ラインにしておくといよい。2017 年度のレベルであれば、長文もそれぞれ多くて 500 語程度であり、時間が足りないということは考えづらい。仮に文法問題が出てきた場合、四択にせよ、並び替えにせよ、10～15 題を 10 分以内に解くように心がける。万が一 2016 年度のような難易度の問題が出てくる場合は長文読解の時間配分が難しいため、文法問題が出た場合は先に解き、残りを全て読解に集中できるように設定するとよいだろう。

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

読解問題

【2017年 大問1】

We eat first and foremost for survival. But in modern times, we no longer eat [(1)] to satisfy biological and nutritional needs. Today we eat to satisfy our senses and sometimes to satisfy emotional needs. We eat for [(2)]; for many people, eating is a form of entertainment. We celebrate with food, and at the same time use food to cope with stressful and emotional situations. In the United States and other developed countries, most of us can afford to buy enough food to eat well for any occasion and we often mark the [(3)] in our lives with special food.

Food and eating are promoted in ways designed to get us to eat more and more. Advertisers and marketing executives know what you like when it comes to both food and food packaging, and they're very good at giving it to you so you'll buy their product. They only provide negative information when they have to. It's not necessarily a scheme with evil intent; it's just part of the business of selling food [(4)]. 中略

問1 空所[(1)] [(2)] [(3)] [(4)] [(5)] [(6)]に入る最も適切な語を、それぞれ (a)~(d)より一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

[(1)]

(a) also (b) just (c) not (d) yet

[(2)]

(a) fun (b) health (c) others (d) survival

問2 下線部(A)とほぼ同じ意味になるように、(a)~(d)を並べ替えて空所に入れ、つぎの文を完成させたとき、2番目と4番目にくるものの記号をそれぞれ解答欄にマークせよ。ただし、同じ選択肢を複数回使用しないこと。

Their ads, packaging and promotions suggest that [].

(a) are desirable (b) give you (c) their products
(d) what you think

【2017年 大問2】

つぎの英文を読んで、問いに答えよ。

It is quite possible, even common, to work across cultures for decades and travel frequently for business while (1) remaining unaware and uninformed about how culture influences you. Millions of people work in global settings while viewing everything [(A)] their own cultural perspectives and assuming that all differences, controversies, and misunderstandings are rooted in personality. This is not due to laziness. Many well-intentioned people don't educate themselves about cultural differences, because they believe that if they focus on individual differences, that will be [(B)]. 中略

問4 下線部(2)の意味に最も近いものを、つぎの(a)~(d)より一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- (a) When you pay no attention to cultural differences, you are likely to stereotype people and classify different groups into the same category.
- (b) When you consider cultural differences, you can't avoid thinking in terms of stereotypes and putting the same label on different individuals.
- (c) Unless you ignore cultural differences, you won't be able to benefit from cross-cultural perspectives.
- (d) Unless you attach importance to cultural differences, you will make the mistake of evaluating people too generally.

問7 つぎの(a)~(e)のうち、著者の主張と合致するものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- (a) Understanding other cultures sometimes gives rise to serious friction, which may lead to misunderstandings in human interactions.
- (b) Some misunderstandings in cross-cultural communication are the result of too much interest in other cultures.
- (c) Understanding cultural contexts is important, but it is much more important to treat people as unique individuals.
- (d) Even in the most complicated environments, comprehending cultural influences may help you work with people from different cultural and social backgrounds.
- (e) You don't have to consider cultural differences, if you have a strong conception of individual uniqueness.

【形式】

500～600 語程度 (短ければ 400 語程度、多ければ 700 語弱) の長文に対し、様々な形式の設問が設定されている。

【分析】

全ての大問において、空欄や下線が至る所に施されており、本文中に設問がせわしく並んでいる感がある。設問については、空所補充、並び替え、下線部の意味解釈、内容把握という 4 種類を中心に区政されている。空所補充や並び替えは文法・語法的な知識が問われるものも一部入っているが、全体としてはやはり読解を試す問題構成と言える。文章レベルは「センター並み」というものは少なく、単語、構文、内容面からも「やや難」と位置付けられるものが多いだろう。

配点は全体を 150 点とした場合、空所補充や単語、熟語レベルの問題は 1 問 3 点、全体を通した内容理解 (最後の「本文の内容として正しいものを選びなさい」、など) が 6 点、その他は 5 点といったところだと考えられる。

【アプローチ】

この問題をやっていてまず思ったのが、分析でも書いた通り、本文中の空所や下線部の多さである。そして、「1st Reading で読みながら解くべきか」「まずは全て読んでから解くべきか」という点であるが、何パターンか試しながらやってみたところ、あまりにも細かい設問が多いため、絶対に全てを 1st Reading で解きながら読むということはするべきではない。読解が標準レベルとは言え、分かりづらい部分を含んでいるため、途切れ途切れに読んでいっては頭に内容が入らない。

ただし、空所補充については 1st Reading で無理なく埋めていけるならその方法もありだが、問題を解くことによって内容理解が途切れないことが大前提である。2016 年度のような難しい問題では、空所のたびに読むのを止めていたら内容把握が全くできなくなり本末転倒である。単純な問題ばかりではなく、結局は Second Reading で前後を含めて読み直す必要があるので、時間が問題でなければ、割り切って First Reading を進められるようにした方が良いと思う。

その他の設問についても、なるべく内容把握をぶつ切りにしないためにも 1st Reading では解かずに、2nd Reading で解けるようにしたい。やや読みづらい文章もあり、いずれにしても 1st Reading で全てが理解できず、「？」が残ることが多いと思うので、2nd Reading でどれだけ正確に読んでいけるかが重要になることは変わらない。

内容把握 (5 つの中から 2 つを選ぶ問題もあり) は抽象度の高い選択肢もあるため、焦らずに選択肢の意味を正しく把握して、どの選択肢が「より正しいのか」という視点から本文の中で再度精査し、正解を導きたい。下線部の意味解釈については、以下の感想を参照こと。きわどい空欄補充、下線部の意味解釈、内容把握はある程度落とすことも想定して 5～6 割だとすると、それ以外で 8 割は確保したい。

【MAX 感想】

特徴的だと思った問題は、下線部の文やフレーズの意味解釈の問題である (サンプル問題、大問 2 の問 4 の形式)。中には結構難しいものもあり、前後関係も含めて正確に判断をする必要がある。下線部の問題については、全体の中でその一文が何を言っているのか明確に把握できなくても、単語と構文に忠実に解釈していけば力技で選択肢を絞ることができる (構文と単語的に意味は作れたが、だからと言

MAX 入試問題アプローチ 2017 法政大学 T 日程 (全学部)

ってはっきりと意味が良くわからない、という形でも正解に近づける)。2016 年度の問題の難易度が高いということを散々述べているが、私自身もそのような手法で正解につなげていった。一方、言葉は簡単だけどそれだけでは意味が分からず、文脈の中から判断するものは読解を図るものとして良問だと思うが、文章の抽象度が高い問題では苦戦を強いられるだろうと感じた。

MAX 所要時間は、2017 年度は First Reading が 3 分半～5 分、1 つの大問全体で 10～13 分ぐらいが相場であった。問題もストレートなものが多く、全体としては自信をもってサクサク解くことができ、合計 38 分で空所補充 2 問、内容理解ミス 1 問に間違いを抑えることができた。ただ、下線部の意味解釈で熟語を問われるものが多くあり、やや聞きなれない表現の設問で点数を落とすことがあった。熟語のカバーは MARCH 以上は必須なので、市販の熟語帳にとどまらず、過去問演習の中で頻度が低いものも抑えていく必要があると感じた。

2016 年度はものによって 20 分を超える大問も 2 つあり、合計 72 分かかった。正答率も 8 割強まで落ちてしまう結果で、正直悔しいわ。

文法問題

【2015年 大問1】

つぎの(1)~(10)において、それぞれに与えられた語句を並べかえて空欄1~5を補い、最も適切な文を完成させなさい。解答は2番目と4番目に入るもののみを(a)~(e)から選び、その記号を解答欄にマークしなさい。大文字・小文字の違いは無視しなさい。

- (1) The company [1] [2] [3] [4] [5] one of the most successful in the world.
(a) been (b) to (c) considered (d) has
(e) be
- (2) We knew that [1] [2] [3] [4] [5] the decision would be.
(a) what (b) not (c) had (d) heard (e) Jane
- (3) John is not very punctual. He usually [1] [2] [3] [4] [5] the class has started.
(a) minutes (b) up (c) after (d) turns
(e) ten

【2015年 大問2】

つぎの文の空欄に入る最も適切な語(句)をそれぞれ(a)~(d)から一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

- (1) You should not put off [] your homework until the last minute.
(a) to do (b) having done (c) doing
(d) to have done
- (2) I can't play the piano, [] the violin.
(a) much more (b) the more (c) not in the least
(d) much less
- (3) Would you please have Alex [] us more drinks?
(a) bring (b) bringing (c) to bring (d) brought

今後出題されるかわからないが、2015 年度に出た文法語法の独立問題についても軽く触れておく。

【形式】

2015 年度の大問 1 は並び替えが 10 問、大問 2 は 4 択の空所補充が 10 問出された。2012 年、2013 年は空所補充が 15 題出されている。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

センターレベルの問題がほとんどで、中には高 1 の模試で出題されても良いぐらいの超基本問題も含まれる。アプローチもクソもない。あえて言うなら「波に乗りすぎてマークミスするな」という程度か。数秒立ち止まる問題もあるが全体的には即答できる問題がほとんどで、娘とみかん食べながらでも瞬殺できた。確認するまでもなく全問正解です。熟語表現、慣用的な構文表現を身に付けていないと正答率が落ちるだろうと感じたが、これは一般の受験生でも 8 割以上を取れる生徒はざらにいるだろう。改めて、これを過去問としてやってきた生徒が 2016 年度の問題を見て、一気に失望に覆われたことを想像するとかわいそうだ。